



道東酪農 需要減 廃棄

16版 2021年(令和3年)12月27日(月曜日) 北海道新聞 1942年10月29日第3報載後物産部 C北海道

需要減 生乳廃棄の恐れ／大規模化の借金が重荷

道東酪農 試練の冬

白糠町の「M&S」が導入した、床に散らばったエサを集めるロボット。コロナ禍による乳製品の需要低迷で、大型設備投資の借入れ返済に不安が募る



「行き詰まる」 「大幅な生産拡大を前提に投資してきたのに、『搾るな』『借入金返済を』では経営が行き詰まる」。 釧路管内白糠町の酪農家4戸で共同経営する「M&S(エムアンドエス)」の渋谷博社長(62)はこう話す。 4月に完成した約4千平方メートルの牛舎では、350頭の乳牛が自由に移動。床に散らばったエサを集めて給餌場所に戻すロボットも慌ただしく動き回る。

廃用牛で処分 今までは廃用牛として出荷されていたのは、主に乳が出なくなったり、治療しても出づらくなったりした乳牛だったが、最近では治療をせずに出荷する動きが拡大。一部では十分に乳が出るにもかかわらず出荷する動きもある。ホクレン根室地区家畜市場(根室管内中標津町)では、12月には昨年同期を1割余り上回る690頭が廃用牛の扱いにかけられた。酪農家の3代男

ていた60頭の購入は見送った。 業界団体Jミルク(東京)は年末年始に、冬休み中の学校給食休止などによる需要減で、約5千トンの生乳が廃棄される恐れがあるとの推計を発表。大量廃棄はホクレンが06年に約900トンを処分したのが最後で、実行されれば最大規模だ。 農林水産省などによると、20年の全国の生乳生産量743万トンのうち、道東(十勝、釧路、根室、オホーツク管内)は322万トンの4割超。大規模投資を行った酪農家が増えたため、「数%の生産抑制でも経営への影響は大きい」と(釧路管内鶴居村の釧路頂頂農協)という。

新型コロナウイルスの影響による乳製品の需要低迷に加え、年末年始に過去最大規模の生乳が廃棄される懸念が強まり、国内全体の4割超を生産する道東の酪農家の経営が厳しさを増している。酪農家の多くは、国が環太平洋連携協定(TPP)対策として生産拡大を後押しする中で行った大規模投資の資金返済への不安を抱えており、専門家は「規模拡大の借入れ返済を猶予する仕組みを国が設けるなどの支援が必要」と訴える。(佐竹直子、田中華蓮、鈴木宇星)

新型コロナウイルスの感染拡大により今年度は延期や中止が相次いだ新年交歓会や成人式を、年明けは多くの自治体が例年通りに開催する。会食を取りやめ、式典時間を短縮するなど、感染対策を講じながら準備を進めている。

交歓会、成人式多数が開催

新年交歓会は今年、中止 外に中継モニターを置くのが相次いだ。年明けは声別市や栗山町などを除き、多くが2年ぶりに開催する。 岩見沢市などでは、実行委は来年1月4日に開催。会食はなしで、松野哲市長や地元選出国会議員らによるあいさつのみとし、時間も例年の半分の30分程度。混雑回避のため会場の15市町が1月に実施し、

待った冬休み宿題も頑張る！ 管内小中学校で終業式 空知管内の多くの小中学校で24日、2学期の終業式や冬休み前の全校集会が行われた。児童生徒たちは、待ちわびていた冬休みに胸を躍らせた。



約370の店舗には、感染防止対策への協力を呼び掛ける文書を配布した。市教委は「新成人は節度を守り、

性は「まだ乳が出るのに、肉用として出荷するのは『辛い』と苦しい思いを明かす。 今後も廃用牛の増加が予想され、1頭のせり値が前年より数万円も低下している。 同町の計根農協は今年11月から1頭当たり3万4千円を農家に補填。十勝町農協(十勝管内十勝町)も今年秋から減産と乳質向上に取り組み、酪農家に奨励金を支給している。

道開発予算案 2022年度政府予算案で北海道開発予算案は、前年度当初比0.1%増の5702億円となった。増加は2年ぶりだ。国土交通省北海道局は、防災や国土強靱化などの推進を目指すとしている。

弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要 弾力性のある配分必要